おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ーその一瞬の判断ー

NO．64

先日、ホールにいるみんなでパラバルーンをしました。みんなを包み込む大きな布を上下させ、その感覚を楽しむあれです。〇〇くんは、以前、バルーンが上下するときの風や、顔や身体に布が触れる感じにドキドキし、ひるんでしまった経験があります。「この子、前回怖かったみたいなので、外から見ています」とお母さんから告げられ、私は「そうなんですね、じゃあ」と、後ろに下がるようエスコートしようと・・。ところが、〇〇くんは一歩踏み出そうとしているように見えました。前に進むか後ろに下がるか、ほんの一瞬考えましたが、“ダメだったらすぐに離れればいい”と、お母さんと一緒にその一歩に付き合いました。お母さんは、〇〇くんの背中は押さず、肩を後ろから抱え、私は、上下するパラバルーンの端を持ち、〇〇くんの頭に当たらないよう加減しながら、みんなの歌声に合わせました。そして、歌が終わり、パラバルーンが外されると、〇〇くんは笑顔で振り返ってきました。きっと遠目から見ていたら、些細な出来事だったと思います。でも、パラバルーンを上下させる一曲の間には小さなチャレンジがありました。

あの時、もし、みんなと同じ 100%の体験をしてしまったら、また溺れてしまったかもしれません。〇〇くんの“少しだけ”の興味を叶え、且つ崩さない程度の加減が、笑顔の体験に結び付いたのだと思います。もちろん次も加減するほうがいいでしょう。スモールステップは大切。でも、もし、〇〇くんがまた一歩踏み出すようなら、その背中を見て“さじ加減”を考えると思います。どのくらいって？ きっとその一瞬で決めます。大人の手を振りほどいていくまでは、〇〇くんが背中で語る言葉を聞くと思います。

「この子はこれが苦手なんです」「これはしないでください」「こんなことがあったんです」などと伺うことがあります。その場で大泣きしたり、しばらく不安定になってしまったり。子ども自身もそうですが、そのときそばにいた大人も、たくさん汗をかいたと思います。お互いもう懲り懲りですね。大事なのは、次似たような場面に遭遇したときの過ごし方です。もし、見た瞬間、子どもが逃げ出そうとするようなら、ためらわず、その子が納得する安全な位置まで下がったほうがいい。まだそこまでがんばる必要はありません。でももし、その子が少しでも体重を前にかけていたなら、その子なりの参加の仕方を考えてもいいと思います。「行ってこいよ！」と渦中に押し込むのは、どうかと思いますが、ただ背中を触っているくらいの後押しや、蛇口を少～しひねるくらいの経験は悪くないかもしれません。そういう場面は、予め準備できないものです。突然やってくることのほうが多いでしょう。もし、あんずでそんな場面に出くわしたら、一瞬の目配せ、アイコンタクトで決めていきましょう。その小さなチャレンジを、みんなが笑顔で終えられるよう、堂々と繊細な“さじ加減”で進めていきましょう。

周到な準備をしても上手くいかないこともあります。相手のあることですからね。思ったようにピッタリとはハマりません。逆に、一瞬で決める小さなチャレンジが、後々の大きな一歩につながることもあります。その一瞬の判断は、日々の積み重ねと手応えから湧いてくる賜物です。

“その一瞬”は、突然やってきます。お楽しみに！　（R3．9）K